



白いころ

もう一度、以前のよう

「あの子のために、おいしいご飯を作ってあげたいんです」
強く訴えかけるその姿に、私の心は張り詰めた。

脳腫瘍の影響で手足に麻痺が残り

以前はできていたことができなくなった患者さん。
小さなお子さんのことを思うと、きつともどかしいだろう。

作業療法士の仕事を始めて3年目。

リハビリに来る方は人生の大先輩が多いから、
まだ若い私は頼りなく見えるかもしれない。

それでも、安心して訓練を任せてもらえるように、
趣味は何か、どんな人たちと過ごしてきたのか、
誰よりも一生懸命話を聞き、患者さんの生活に合った方法を考える。

「ゆつくりでいいですよ。料理を作る練習を、焦らずにやっていきましょう」
包丁を握った患者さんの手が、少しずつ動いていく。

「できました！できました！」

そのうれしそうな顔を見たとき、胸が熱くなった。

医師のように病気を治すことはできなくても

以前の生活を取り戻すお手伝いなら、私にもできる。

「もう一度」を叶えるために、

私は患者さんの話にも何度も耳を傾けていく。

作業療法士 永尾 祐佳